
日本鳥学会 2023 年第 1 回評議員会報告
日 時：2023 年 2 月 20 日（月）10:00-12:35

場 所：オンライン (Zoom 会議)

評議員：綿貫 豊 (議長・会長)・嶋田哲郎 (副会長)・植田睦之・尾崎清明・川上和人・齋藤武馬・高木昌興・永田尚志・濱尾章二・早矢仕有子・三上 修・森 さやか・山口典之

事務局：事務局長・会計幹事・庶務幹事 (風力発電等対応 WG 長)

監 事：秋山幸也・森口紗千子

オブザーバー：高橋満彦 (法人化検討グループ)

審議事項

- 1) 2022 年度総会決議
2022 年度総会の 9 つの審議事項に関する書面決議の結果が確認され、すべて承認された。
- 2) 2022 年次大会の会計報告等
会計報告が承認された。
- 3) 英文誌編集委員会規定第 2 条の改定
改定が承認された。
- 4) 保護委員会の規定改定案
表記の統一、文言の削除、専門員の役割を追記の上でメール審議となった。後日、メール審議で改訂された保護委員会規定改定案が承認された。

意見聴取

- 1) 分類・記録・目録委員会の統合について
3 委員会を統合した常設委員会の設置、および新規規定案と規定改定案について、今回の評議員会での承認を目指し今後調整することとなった。
- 2) 一般社団法人日本鳥学会の組織体制
組織体制の考え方、法人化支援等にかかる費用、および一般社団法人日本鳥学会 定款案について、引き続き事務局で準備を進めることとなった。
- 3) 鳥学会洋上風力発電環境アセスメントガイドライン (暫定版草案)
策定経緯と今後の予定について、特段の意見はなく、次回臨時評議員会での承認を目指し暫定版の指針を公表することが認められた。

報告事項

総会決議・鳥類保護委員会決議の手続き、英文誌ペーパーレス検討グループ、育志賞について報告があり、特段の意見はなかった。

日本鳥学会 2023 年第 2 回評議員会報告

日 時：2023 年 6 月 27 日 (火) 16:00-18:00

場 所：オンライン (Zoom 会議)

評議員：綿貫 豊 (議長・会長)・嶋田哲郎 (副会長)・植田睦之・尾崎清明・亀田佳代子・齋藤武馬・高木昌興・濱尾章二・三上 修・森 さやか・山口典之・川上和人

事務局：事務局長・会計幹事・庶務幹事 (風力発電等対応 WG 長)

監 事：秋山幸也・森口紗千子

オブザーバー：高橋満彦 (法人化検討グループ)

審議事項

- 1) 英文誌ペーパーレスの検討にともなう学会員へのアンケート
文案を微修正した後アンケートを実施することが承認された。
- 2) 洋上風力発電環境アセスメントガイドライン (暫定版)
文案について ML で意見聴取を行い、次回評議員会で承認を得た後公表することが承認された。

意見聴取

- 1) 一般社団法人日本鳥学会 定款案と組織体制
次回評議員会までに意見があれば受け、その後総会にかけることになった。

報告事項

石川大会の準備状況、自然史学会連合 2023 年度総会、分類・目録委員会の 2 委員会の統合、育志賞、2023 年日本鳥学会黒田賞および内田奨学賞受賞者 (メール審議結果)、津戸基金によるシンポジウムの助成対象について報告があり特段の意見はなかった。目録の現状と見直しについては、目録編集委員会委員長に問い合わせを行うことになった。そのほか、鳥学会運営上の課題について意見が出され、今後検討することとなった。

日本鳥学会 2023 年第 3 回評議員会報告

日 時：2023 年 8 月 7 日 (月) 14:00-17:00

場 所：オンライン (Zoom 会議)

評議員：綿貫 豊 (議長・会長)・嶋田哲郎 (副会長)・植田睦之 (大会支援委員会委員)

長)・尾崎清明・川上和人(基金運営委員会委員長)・齋藤武馬・高木昌興・西海 功(分類委員会委員長・目録編集委員会委員長)・濱尾章二・早矢仕有子・三上 修・森 さやか(広報委員会委員長代理)・山口典之・亀田佳代子

委員会委員長:水田 拓(英文誌編集委員会委員長)・金井 裕(日本産記録委員会副委員長)・佐藤 望(企画委員会委員長)・武石全慈(保護委員会委員長)・藤田剛(和文誌編集委員会委員長・2024年度大会会長)

2023年度大会長:大河原恭祐

事務局:事務局長・会計幹事・庶務幹事(風力発電等対応WG長)

監 事:秋山幸也・森口紗千子

審議事項

- 1) 2024年度大会開催について
2024年度大会の開催時期や体制について承認された。
- 2) 2025年度大会開催候補地
2025年度大会を札幌で開催することが承認された。
- 3) 次期委員会体制について
次期委員会体制が承認された。
- 4) 2024年度予算案
2024年度予算案が承認された。
- 5) 英文誌ペーパーレス
英文誌ペーパーレス化について、アンケート結果および説明文をHP公表し、今年度総会議案とすることが承認された。
- 6) 洋上風力発電環境アセスメントガイドライン
洋上風力発電環境アセスメントガイドラインを公表することが承認された。
- 7) 一般社団法人日本鳥学会の組織体制と定款
定款案の要約、法人化移行後にもなう組織体制の変更等について総会前にHPで情報公開を行い会員から意見聴取を行うことが承認された。
- 8) 日本鳥学会基金運用規定改定案
日本鳥学会基金運用規定改定案が承認された。
- 9) 鳥類分類員会(常置)と目録編集委員会(臨時)の統合
・新規に定める鳥類目録編集委員会規定案
・日本鳥学会会則第7章委員会 第15条改定案

・日本鳥学会鳥類分類委員会規定の廃止
鳥類分類員会と目録編集委員会の統合が承認され、新規に定める鳥類目録編集委員会規定案、日本鳥学会会則第7章委員会 第15条改定案、および日本鳥学会鳥類分類委員会規定の廃止について承認された。

10) その他

鳥学会は男女共同参画が遅れていると意見が出され、今後事務局で検討していくこととなった。

報告事項

会計幹事から2022年度決算承認、および2023年度通常会計執行状況、2023年度大会長より大会準備状況、事務局より会員動向、選挙結果、およびインボイス制度への鳥学会の対応について報告があった。また、各種委員長より委員会の報告があり、目録編集委員長から目録出版が遅れている経緯と出版に向けた今後の見通しが説明された。

その他

事務局より日本鳥学会の業務改善に向けた取り組みが提案され、今後アンケートにより業務量の把握を行い、アルバイト雇用による業務負担軽減について検討することとなった。

2023年 第4回日本鳥学会評議員会報告

日 時:2023年12月6日(水)11:00-13:00

場 所:オンライン(Zoom会議)

評議員:綿貫 豊(議長・会長)・嶋田哲郎(副会長)・植田陸之・尾崎清明・川上和人・亀田佳代子・齋藤武馬・高木昌興・濱尾章二・早矢仕有子・三上 修・森 さやか・山口典之

オブザーバー:藤田 剛(2024年度大会会長)・武石全慈(鳥類保護委員会委員長)・水田 拓(英文誌編集委員会委員長)・堀江明香(企画委員会・男女共同参画担当)・高橋満彦(法人化検討グループ)

事務局:事務局長・会計幹事・庶務幹事

監 事:森口紗千子・関 伸一(次期)

審議事項

- 1) 男女共同参画の活動促進等を目指すWGの設置について
企画委員会の下でのダイバーシティ推進ワー

- キンググループの設置、代表、目的、メンバーの概要について承認された。
- 2) 海鳥の集団繁殖地における外来種対策を求める要望書について
今後文章等を改訂した後、要望書を保護委員長名で提出することが承認された。
 - 3) Ornithological Science 誌の外国人 Editorial Board について
英文誌編集委における外国人 Editorial Board についての方針が承認された。
 - 4) 英文誌ペーパーレス化の開始と交換雑誌の廃止について
英文誌ペーパーレス化を開始することが承認された。
 - 5) 2024 年度大会参加費
大会参加費が承認された。
 - 6) 2024 年度修正予算案
修正予算案が承認された。

意見聴取

日本鳥学会の業務改善に向けた取り組みとして現状の業務負担を把握するためにアンケートを実施すること、オンライン投票の匿名性と有権者の承認について法人化後に理事会で検討することとなった。

報告事項

総会報告を学会の HP に公開すること、今後の法人移行スケジュールが報告された。

日本鳥学会 2023 年度総会議決報告

2023 年 9 月 17 日（日）15:10–17:10
金沢大学角間キャンパス 南地区 自然科学研究棟 大講義室（メイン会場）、レクチャーホールおよび AV 講義室（中継会場）

はじめに以下の報告が行われた。

- 1) 事務局報告
- 2) 評議員会報告
- 3) 各種委員会報告
- 4) 選挙結果報告
- 5) 次期会長挨拶、次期事務局体制
- 6) 洋上風力発電建設にかかる環境アセスメントガイドライン

次に以下の議事が審議され、承認された。

- 1) 2022 年度会計決算／監査報告
- 2) 2024 年度予算案

- 3) 英文誌ペーパーレス化
- 4) 一般社団法人日本鳥学会の組織体制と定款、法人移行後の役員
- 5) 鳥類分類委員会と目録委員会の統合
- 6) 規約改定

和文誌編集委員会報告

1) 発行状況

72 巻 1 号を 2023 年 4 月に 72 巻 2 号を 2023 年 10 月に発行した。Editor's Choice「注目論文」はそれぞれ、高橋晃周さんによる総説「気候変動がペンギンに与える影響」と川路則友さんたちによる「センダイムシクイの繁殖生態とツツドリによる托卵」に決まった。

72 巻 1 号（4 月） 特集 2, 原著 4, 短報 1, 観察記録 1

72 巻 2 号（10 月） 原著 3, 短報 3, 観察記録 3

2) 投稿・編集状況

今年度の編集状況は、下表のとおりである。投稿数は原著論文と短報、観察記録のいずれも順調である。新投稿・査読システム ScholarOne の導入も起動に乗り、今年度投稿された原稿はすべてこのシステムから投稿されている。

	総説	原著	短報	技術報告	観察記録
繰越し	0	4	0	0	5
投稿	0	12	8	0	10
受付	0	12	8	0	10
受理	0	9	4	0	10
編集中	0	7	2	0	5
不受理	0	0	2	0	0

3) J-stage 搭載電子版のアクセス

J-stage における過去 1 年間（2022 年 1 月–2022 年 12 月）の和文誌掲載論文（2006 年第 55 巻–2022 年第 71 巻）に対する全文 PDF アクセス数（クローラー除く）は、昨年（77,329 件）の約 0.93 倍にあたる 71,973 件だった。アクセス数は 2020 年に急増したが、その後徐々に減少しており、これはコロナ禍の影響を反映しているとみられる。国別内訳は昨年同様、日本が多数を占め（55,930 件；77.7%）、アメリカがこれにつき（9,787 件；13.5%）、ドイツ（1,524 件；2.1%）、中国（1,428 件；2.0%）が続いた。国外からのダウンロードの比率は昨年までの数年、19%（2018）、22.0%（2019）、22%（2020）、25.5%

(2021) と徐々に上昇していたが、2022年度は22.3%に落ち着いた。

(和文誌編集委員長)

英文誌編集委員会報告

1) 発行状況

第22巻1号(原著7編, 短報4編)を2023年1月に, 2号(原著5編, 短報6編)を7月に発行した。Editor's Choiceはそれぞれ, Y. INOUE氏らによる安定同位体を用いてコアホウドリとクロアシホウドリの食性の種間, 雌雄間, 繁殖ステージ間の違いを調べた論文と, M. SAKAO氏らによるオオミズナギドリの遺伝構造に繁殖個体群間で違いが見られないことを示した論文とした。

2) 編集状況

2023年1月-12月

総投稿数 34 (前年比 1.17 倍)

受理数 5 採択率 35.7% [受理数/(総投稿数-審査中数-取り下げ数)]

審査中 19

取り下げ 1

却下数 9 (うち編集委員会却下数 3)

前年に比べ投稿数は微増したが, 昨年同様, 査読まで回らず編集委員会内の審査で却下された論文も多く, また査読に回っても却下される論文が多かった。投稿数の増加だけでなく投稿論文の質の底上げが引き続き重要な課題である。

3) その他

2022年7月-2022年6月の電子版アクセス状況は, 資料トップへは昨年比8%増の6,279件, 全文PDFへは7%減の16,605件であった。2022年のインパクトファクターは0.600 (Ornithology カテゴリ 29誌中 25位)で, 昨年に比べ低下した(この3年間の推移は0.886 → 0.795 → 0.600)。順位も下がっており, また掲載に至る論文数も減少していることから, 雑誌の認知度や相対的な魅力が低減していることが懸念される。

(英文誌編集委員長)

鳥類保護委員会報告

1) 過去の決議にかかる案件の現状について

過去の総会決議及び委員会決議として発出された案件の現状について各委員から報告が行われた。

2) 総会決議の申し込み及び委員長名要望書について

2023年度総会にあたっての決議案の申し込みはなかった。なお, 「総会決議についての鳥類保護委

員会の考え方(改訂版)」と「総会決議・鳥類保護委員会決議の手続きについて(内規)」は鳥類保護委員会ウェブサイトに掲載されている。以前から委員会に提案されていた「海鳥の集団繁殖地における外来種対策を求める要望書」は保護委員長名要望書として評議員会に提起し検討する。

3) 風力発電等対応WGの活動について

WG長から「洋上風力発電建設にかかる環境アセスメントガイドライン」に関する作成, 承認, 公開及び自由集会開催について, これまでの経緯と今後の日程状況の説明が行われた。同ガイドラインは2023年度総会で報告され承認された。「風力発電の導入についての日本鳥学会の基本的な考え方」とともに, 鳥学会ウェブサイトのトップページで公開されている。

4) 保護委員会規定改定について

本件については2023年度総会議案として提起され承認された。

5) 新委員長・新副委員長の選出について

2024年からの委員長として澤 祐介氏が, 副委員長として高橋満彦氏と浦 達也氏が選出された。

6) 委員の退任・新任について

大迫義人, 呉地正行, 小高信彦, 佐藤重穂, 白木彩子, 武石全慈の6氏は2023年末をもって退任となり, 井上 遠氏が2024年から新任となった。

(鳥類保護委員長)

日本産鳥類記録委員会報告

日本産鳥類記録委員会は, 2023年度において以下の活動を行った。委員会はオンラインにて開催した。

1) 目録第7版の記述事項に関する質問への対応
目録第7版の記述のうち, 各地の生息記録に関する一般, もしくは他委員会からの質問に答えるための文献資料等の確認作業を行った。

2) 目録の記載変更根拠資料の整理

目録6版から7版への記載変更の根拠文献や情報の確認を行い, 資料として整理する作業を実行中である。

3) 日本産鳥類の記録文献収集および整理

稀種の記録, 各地鳥類相, 標本目録等の記述が掲載されている, 日本産鳥類の記録に関する文献の収集と整理を行った。これらは今まで同様, ある程度まとまりがついたところで, 随時和文誌上に公表していく予定である。

4) 日本産鳥類の記録収集と整理

未だ文献化されていない日本産鳥類の記録(イ

インターネット上に公表された記録、個人的伝聞による記録など) についての情報の収集と整理を行った。

5) 日本産鳥類の記録に関する文献作成への協力
当委員会の委員を通して要請があった場合に限り、目録、報告書、論文の作成時に過去の記録などが明らかでない場合に、その探索と提供を行った。

6) 目録第8版の編集について、記録委員会委員は目録編集委員として各地の記録収集と整理にあたった。具体的には、各地の協力者から報告された地方の分布記録の確認と目録への記載の適否の判断を委員間の協議により実施した。協議にあたっては必要に応じてオンライン会議を開催している。

(日本産鳥類記録委員長)

鳥類分類委員会報告

分類委員会では、メンバーの全員が目録編集委員会の委員を兼務しているため、日頃の分類委員会の活動に加え、目録編集作業のための作業を行っている。今年度は、オンライン会議2回と、その他10回余りメールにて審議を行った。具体的な作業としては主に、第8版に掲載される種のリスト作成とその学名の検討および世界分布の検討である。そのため、最新の海外の分類チェックリストや文献を参照し検討した。

(鳥類分類委員長)

目録編集委員会報告

目録第8版出版に向けた編集作業は分類と記録それぞれの委員会で定期的にオンライン会議をもってもらい進めてきたが、目録委員会全体ではオンライン会議をおよそ2か月に1回の頻度で計7回開催した。2023年9月の出版を目指して準備してきたが、さらに1年出版を延期することを8月に決めてHPでお知らせした。第2回パブリックコメントの開始に向けて、学名と和名のリストを9月末に公開し、さらに10月末に国内分布情報を含む「暫定リスト」を公開した。第2回パブリックコメントの開始が遅れているが、2024年9月の出版に向けて、一部学名の再修正をおこない、世界分布を確定することで、早期に第2回パブリックコメントを開始したい。9月の金沢大会では、一昨年と昨年に引き続き自由集会をもって、編集の状況と第2回パブコメについて説明し、学会員と意見交換した。

(目録編集委員長)

企画委員会報告

1) 鳥の学校

日本鳥学会2023年大会にあわせて鳥の学校(第14回テーマ別講習会)「ガンカモ類研究のための捕獲技術実習」を開催した。

2) 男女共同参画関連

第21回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム(2023年10月14日、オンライン開催)に委員が参加した。男女共同参画学協会連絡会定時総会と運営委員会に委員がオブザーバ参加した。

3) 日本鳥学会ポスター賞の実施

2023年度大会にあわせて第6回日本鳥学会ポスター賞を実施した。「①繁殖・生活史・個体群・群集」「②行動・進化・形態・生理」「③生態系管理/評価・保全・その他」の3部門に対して各1名の受賞者を選定し、公表した。

4) 2023年度大会高校生企画の実施

2023年度大会において高校生ポスター発表とポスター賞の選考と授与等の高校生企画を実施した。

(企画委員長)

広報委員会報告

1) ウェブサイトの更新

事務局、各委員会などから月に数件の更新依頼があり、ほぼ数日以内に処理できている。アクセス解析によると1日に約800件(24,000件/月)の訪問がある。閲覧数が多いのは日本鳥類目録とリンク・研究室情報のページとなっている。事務局が直接お知らせをウェブサイトに掲載できるようにするため、Googleドキュメントによる更新も導入を検討する。鳥学通信のWordPress移行について引き続き作業を進めている。

2) 鳥学通信の発行

ユーザーの関心の高い内容の掲載記事案を共有し、原稿依頼を委員間で分担して行っている。平均月2報以上の目標を達成できている。アクセス解析によると1日に約100-200件(3,000件/月)の訪問がある。最新記事だけでなく過去記事も検索エンジンから頻繁にアクセスされている。

3) 広報委員会運営SNSの運用状況

FacebookとX(Twitter)で、鳥学通信の新規記事、大会事務局や学会事務局からのお知らせの一部を配信している。フォロワー数は両SNSとも昨年から増加しており、Facebookが約2,700名(約200名増)、Xが約4,000名(約500名増)となっ

ており（2023年12月現在）、鳥学会の活動内容を一般へ広報する重要な役割を果たしている。

4) 2023年度大会へのウェブサイトとメールアドレスの提供

大会実行委員会からの要請に基づき、大会ウェブサイト用のテンプレートとサーバースペース、大会事務局用メールアドレスを提供した。

5) 委員の退任

広報委員を連続5期務められた三上 修氏が2023年末をもって退任する。

(広報委員長)

基金運営委員会報告

1) 2023年度学会賞

黒田賞は澤田 明氏、内田奨学賞は溝田浩美氏と伊関文隆氏を受賞候補者として選定し、評議員会で承認された。中村司奨励賞は対象者がなかった。詳細は前号（日本鳥学会誌72巻2号）で報告済み。

2) 2023年度津戸基金助成

2023年度は津戸基金を募集したものの応募がなかった。このため、2024年度に再募集を行う。

3) 2024年度学会賞等

黒田賞、内田奨学賞、中村司奨励賞の募集を開始した。津戸基金によるシンポジウム開催助成の募集を開始した。

(基金運営委員長)

大会支援委員会報告

1) 2023年度金沢大会の支援

実行委員会に参加し、大会運営の進め方等のアドバイスをしたほか、参加と講演の受付、講演要旨作成、協賛企業、展示ブース関係についての実務を担い、高校生ポスター、ホームページの設置等についてサポートを行なった。

2) 2024年度東京大会の支援

実行委員会に参加し、情報提供等を行った。

(大会支援委員長)